

## 第201回（令和3年2月21日施行）

### 基礎簿記会計

#### 第1問〈帳簿の作成記入についての出題〉

本問では、帳簿の作成記入に関する基礎知識を出題した。帳簿は、取引の証拠として一定のルールに則って作成される。これらのルールを文章の正誤判断により問うている。

1. 帳簿記録を訂正する際の手続きについて問うている。
2. 仕訳帳の記入に関する理解を問うている。
3. 仕訳帳から総勘定元帳へ転記する際の手続きについて問うている。
4. 記帳対象となる簿記上の取引についての理解を確認している。

#### 第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。例えば、現金という資産の増加は借方に、減少は貸方に記入する。簿記上の取引は、必ず2つ以上の勘定科目を記録し、仕訳された借方と貸方のそれぞれの合計金額は一致する。

1. 自治会が自治会費を集金した取引である。管理費収入（収益）の発生と現金（資産）による集金の記帳を問うている。
2. コピー用紙等の消耗品を現金購入した取引である。消耗品費（費用）の発生と現金（資産）による支払いにかかる記帳を問うている。
3. 自治会活動に必要な交通費を支払った取引である。交通費（費用）の発生と現金（資産）による支払いにかかる記帳を問うている。
4. 現金の出資により美術品小売業を開業した取引である。企業に出資された現金（資産）の増加と、出資額である資本金（純資産（資本））の増加に関する記帳を問うている。
5. 商品を代金後払いで購入した取引である。商品（資産）の購入と、買掛金（負債）の増加に関する記帳を問うている。
6. 商品を現金で販売した取引である。商品（資産）を販売し、引き渡すことによって商品販売益（収益）を獲得し、代金を現金で受け取った際の記帳を問うている。
7. 後払いで購入した商品の代金（将来に現金等で支払う約束である買掛金）を支払った取引である。普通預金（資産）からの支出と、買掛金（負債）の減少の記帳を問うている。
8. 銀行から借り入れていた資金の一部を返済した取引である。普通預金（資産）からの支出と、借入金（負債）の減少の記帳を問うている。

### 第3問<会計の構造に関する出題>

期首の貸借対照表を出発点として、期中に利益獲得のための経済活動が行われる。その結果が、期末の貸借対照表である。この貸借対照表では、期首や期末それぞれの時点における財政状態が表示され、「資産＝負債＋純資産（資本）…①」という等式が成り立つ。

一方で、期中に行われる利益獲得のための経済活動の成果（経営成績）を表すのが損益計算書であり、「収益－費用＝当期純利益…②」の算式で利益が計算される。ここで計算された利益は期末純資産（資本）の増加の原因となる（当期純損失であれば減少の原因となる）。したがって、資本の追加出資や引き出しがないことを前提として「期首純資産（資本）＋当期純利益＝期末純資産（資本）…③」という算式が成り立つ。

本問では、これらの関係から、貸借対照表および損益計算書の金額を導くことができるかを問うている。

### 第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

本問では、会計報告書の作成問題を非営利分野から出題した。すなわち、会計記録をまとめた試算表から会計報告書を作成できるかどうかを問うている。解答欄の会計報告書は、収入と支出を左右に分けた勘定式ではなく、収入を上書き、下へ書いた支出を差し引く報告式となっている。前期繰越金に当期の収入を加算し、支出を減算することによって、次期繰越金を算出する過程を表示することができる。

### 第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

本問では、営利企業における貸借対照表および損益計算書の作成問題を出题し、与えられた元帳の各勘定科目の残高から貸借対照表と損益計算書を作成できるかを問うている。期間損益計算を行う営利企業における会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。解答用紙に勘定科目をあらかじめ示してあるので、作成に際しては、金額を誤らないように記入し、当期純損益を算出するという手順が理解できているかが問われる。